



嘉穂での思い出を胸に

工 藤 宏 敏 (高・40)

平成26年度嘉中・嘉高同窓会北九州支部の当番期代表を務めさせていただきます工藤宏敏と申します。現在、福岡県の高等学校理科（物理）の教員として福岡県立東筑高等学校に勤務しております。平成5年4月に採用され、初任校が福岡県立八幡高等学校です。八幡高校には平成11年3月までの6年間お世話になりました。その後、平成11年4月に東筑高校へ転勤し現在に至っています。

今回、会報「龍王」に高40回生代表として寄稿させて頂けるということで、高校時代のことを少し思い出してみるとしました。

昭和60年4月、憧れの嘉穂高校に合格し、伝統の学生帽を手にすることができました。入学早々、応援団による応援指導には度肝を抜かれ、噂以上の応援団の迫力に「校歌」を1日で記憶したこと覚えています。校歌だけではなく「第一応援歌」「第二応援歌」「逍遙歌」「健闘歌」そして「センキョク」「カラテボサノバ」「チャッキリブシ」「トウカイドウ」、30年経った今でも体に染み付いています。入学後の約1ヶ月間で瞬く間に「嘉穂色」に染まりました。

部活動では、バスケットボール部に入部し、3年時にはキャプテンをさせていただき、校訓の「文武両道」を「ブンブン部活動」に纏き進めた生活を送っていました。部活動の大会だけでなく大会前の練習にも、多くのOBの先輩方が応援に駆けつけてくださり、嘉穂の絆の強さを感じました。

高校3年の大運動会では、赤グループのグループ長を務めさせていただき、本当に嘉穂での3年間を満喫することができました。同級生、先輩、後輩、先生方と接する毎日の学校生活全てが楽しかったことを覚えています。そのような経験の中で高校教師という職を選んだのも極々自然の流れでした。

縁というものは不思議なもので、初任校として赴任した八幡高校の体育館は、高校3年の県大会の会場で、北九州地区代表の戸畠工業高校との熱戦を演じた場所でもあります。その学校で教師と

して6年間、バスケットボール部を指導し（もちろん専門の物理もしっかりと指導しました）、県大会には届きませんでしたがあと一步のところまで行くことができました。2校目は嘉穂高校とも深い繋がりがある東筑高校で、赴任が決まったときには母校に戻ったわけではありませんが、なにかの縁を感じました。東筑高校に赴任し、3年目にバスケットボール部の県大会で母校の嘉穂高校と対戦し、熱戦を演じたことを思い出します。その時の嘉穂高校の監督は東筑OBで東筑高校の監督が嘉穂OBの私でした。この対戦は当事者同士にとって、とても意味深いものでした。

平成23年度に嘉穂高校はスーパーサイエンスハイスクール（以下SSH）の指定を受けています。東筑高校は平成25年度よりSSHの指定を受け、私は現在SSHの推進委員長として企画、運営の中心となって仕事をしております。その関係もあって母校嘉穂高校の取り組みや後輩たちの活躍を比較的近くで見ることができます。毎日が楽しかった高校生活を忘れることができずに高校教師の道を選び、母校との繋がりが強すぎず、弱すぎない、ちょうど良いところで生活できていることに幸せを感じています。

最後に本年度は嘉中・嘉高同窓会北九州支部総会を皮切りに高40回生が当番期として、同窓生の皆様のおもてなしをする番になりました。嘉穂高校への入学が私の人生を決めたといつても過言ではありません。高校で教鞭をとり、生徒とともに生活をする中で、その指導の根底となる教えは嘉穂高校での生活から得られたものだと思っています。当番期を契機に母校に恩返しをする時期に入ったのだと思っています。高40回生の北九州支部代表として少しでも恩返しができたらと思います。とはいえ、多方面でご活躍なさっている先輩方からすれば、まだまだ若輩者です。今後もご指導いただき、母校の発展のために少しでも役に立ちたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。